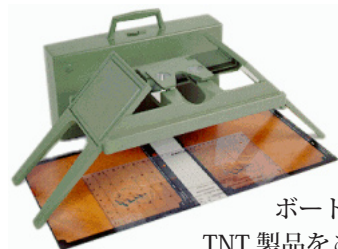


低価格ステレオスコープ

構成：

- 標準ジオスコープーミラーステレオスコープ (反射式実体鏡) 各種 (US \$200 ~)
- デュアル 15 インチフラットパネルモニタ 解像度 1024 × 768 (2 台で US \$500 ~)
- Apple G5 PowerMac デュアルプロセッサ または 使用中の TNT 用 PC と追加のディスプレイボード



特徴：

モニタとして、2 台の 15 インチフラットパネルを使用。普段は TNTmips の作業でスタンドに立てて使うものです。右側は、TNTmips のキーと一緒に撮影したモニタの配置。左図は通常の航空写真の場合。プリント写真をテーブル上で動かして立体的に見える場所を移動します。このような配置で使用するとき、ディスプレイボードとモニタの組合わせで画像を 90 度回転して表示できるか確認してください。

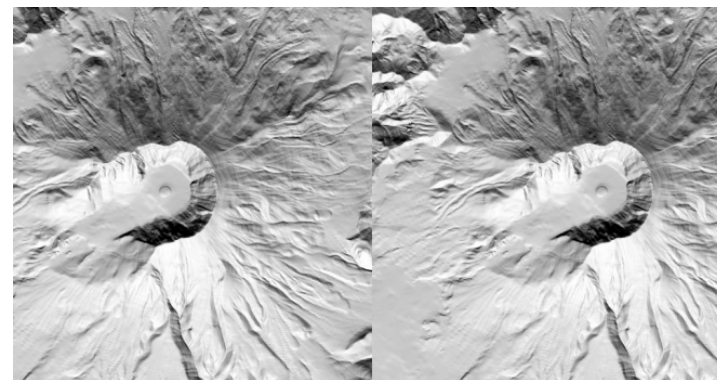
TNT 製品をこのように使うと、固定したステレオスコープの下の 2 台のモニタに画像を同時に並べて表示しマウスを使って動かすことができます。ステレオスコープや航空写真を動かす必要がありません。一組のステレオ画像は自動的に適切な位置に表示されます。ジオスコープの脚を両モニタの溝に接するところにマジックテープで固定する方法もよいでしょう。そうすると、モニタを立てて起こすことができます。前にのり出せばステレオ表示が、深く座ればステレオスコープの下にある 2 台のモニタを普通に見ることができます。マジックテープで止めた脚を引っ張って緩めてステレオスコープを横に置くこともできます。立てた方が、写真のように水平に置くものより背中への負担が少なくてすみます。

長所：

- 低コストで安定した実体視が可能
- 反射光ではないのでプリント写真を使うより明るさや色調の変化がありません (他の立体表示機器では、偏光フィルターや液晶シャッターを使うため、立体画像を作成する画像に影響を与えます)。
- 眼精疲労の軽減。目への負担はプリント写真を使用したときとかわりません (他の多くの立体表示機器では、疲労だけではなく、すぐに眼精疲労を引き起こします)。
- すでにお持ちのモニタ 2 台で動作可能ですので、TNT 製品を効率的に使うことができます。

短所：

- この低コストステレオスコープの方法では立体表示できる領域が約 13 センチ × 13 センチに限られます。
- 一度に使用できるのは 1 ユーザのみです (ディスプレイボードを追加すれば複数のモニタに映し出すことができます)。



高解像度のオルソ (正射) 画像およびデジタル標高モデルは現在広く入手可能です。TNTmips や TNTedit、TNTview で高品質なステレオ表示が可能であり、2 次元や 3 次元での鳥瞰図表示のパワーを増強します。ステレオ表示は、直接フィールド調査を行うには費用や時間がかかったり危険を伴う場合に、地上の状態や特徴を調べ図化するのに効果的です。ステレオ表示はまた、地表面とその下の構造の 3 次元的空間関係を明らかにするのに効果的です。ステレオ表示は TNTmips および TNTedit の空間エディタで利用でき、2D ウィンドウでの地理データの編集作業をアシストします。